

■米国：CAISO 管内でソーラー発電の比率が初めて総発電電力量の 40%に届く

2017 年 4 月 7 日付の業界紙によると、カリフォルニア独立系統運用機関 (CAISO) は、2017 年 3 月 11 日の 11 時から 14 時の時間帯に、メガソーラー発電が初めて総発電電力量の約 40%に達したと発表した。要因として、エネルギー情報局 (EIA) は、2016 年内にメガソーラーの設置容量が前年比で約 50%増加したことを挙げている。CAISO 管内の電力会社によれば、2016 年末現在、540 万 kW の消費者の所有する分散型ソーラー発電設備が配電グリッドに接続している。EIA によると、メガソーラーに加えてこれらの消費者の所有する分散型ソーラー発電を含めた場合、日中の総需要に占めるソーラー発電の比率は 50%を超えたと見込まれ、これらの背景から、CAISO の電力の取引価格は大幅に低下し、価格がマイナスとなる時間帯もあった。しかし、こうした価格低下は電力料金に反映されておらず、EIA によると、カリフォルニアの一般消費者向け電気料金は未だに全米で最も高いレベルのままである。